

## 日立造船神奈川工場について

平成 14 (2002)年 10 月、ユニバーサル造船ができるまで、海上自衛隊の掃海艇は、横浜市鶴見区にある日本鋼管(NKK)鶴見工場と川崎市川崎区にある日立造船神奈川工場（日立神奈川）で建造していた。しかし、日立造船がユニバーサル造船に造船事業を移管してからは、日立神奈川では艦船の建造はもとより検査修理も行わなくなった。同所ではその後、工場内に日立造船子会社のヒツツ川崎発電所が竣工し、操業を開始したが、平成 21 (2009)年 3 月に工場は閉鎖された。現在、その場所には日本通運の物流センターがあり、往時の面影は全くない。

日立神奈川は、昭和 19 年に操業を開始、戦時中の空襲で大きな被害を受けたものの、戦後は海上自衛隊創設期から艦艇建造を受注し、日本初の木造掃海艇の 1 番艦 MSC601「あただ」(昭和 28 年度計画)を建造し、平成 14 年までに海上自衛隊艦船を合計 53 隻建造した。(MSC×44、MSB×5、PT×2、MSO・ASY 各 1 隻)

平成 7 年まで、海上自衛隊は木造掃海艇を毎年ほぼ 2 隻ずつ建造しており、NKK 鶴見とともに安定した掃海艇建造を実施できたが、それ以降は掃海艇の建造隻数が減少、ユニバーサル造船以降、掃海艇の建造基盤を鶴見に一本化したものの、掃海艦艇を建造しない年度もたびたび発生し、掃海艇建造基盤維持が困難になりつつある。

平成 14 年 3 月、日立神奈川で、MSC685「とよしま(10MSC)」が就役した。

平成 15 年 3 月、MSC687「いずしま(11MSC)」の建造所は、日立神奈川であるが、引渡は、NKK 鶴見製作所で進水した MSC686「うくしま」と共に、ユニバーサル造船京浜事業所(旧 NKK 側)で行われたため、実質的に日立神奈川で最後に引き渡された自衛艦は「とよしま」という事にある。

MSC688「あいしま(12MSC)」以降の艦は、建造所がユニバーサル造船所となっている。

なお、日立神奈川は、海上自衛隊艦艇以外に、高速船艇を建造しており、その構造は、木構造、鋼構造、アル骨木皮構造という変遷を経てきた。

そして、昭和 30 年頃から、アルミ軽合金製の巡視船・巡視艇、漁業取締船など建造してきた。

昭和 35 年、スイスのシュプラマール社と水面貫通型水中翼船の技術提携契約を締結、昭和 37～56 年にかけて、大小 52 隻を建造・就航させた。

平成 3 年にインキャットと高速フェリー建造のための技術提携を結び、以後、波浪貫通型双胴船、水中翼付双胴高速船等、多くの高速フェリーを建造した。

平成 13 年度計画の 350 トン型巡視船 (PM)「とから」は、建造中に日立造船と NKK の造船部門が統合しユニバーサル造船 (USC) となり、神奈川工場で最後に引き渡した巡視船となった。

なお、海上自衛隊のアルミ軽合金製の船としては、平成 11 年 11 月に、海上自衛隊最大のアルミ艇「はしだて」を建造した。



在りし日の日立神奈川工場。巡視船隣の白い建物が掃海艇建造建屋



現在は日通の物流センターとなっており、造船所の面影はない